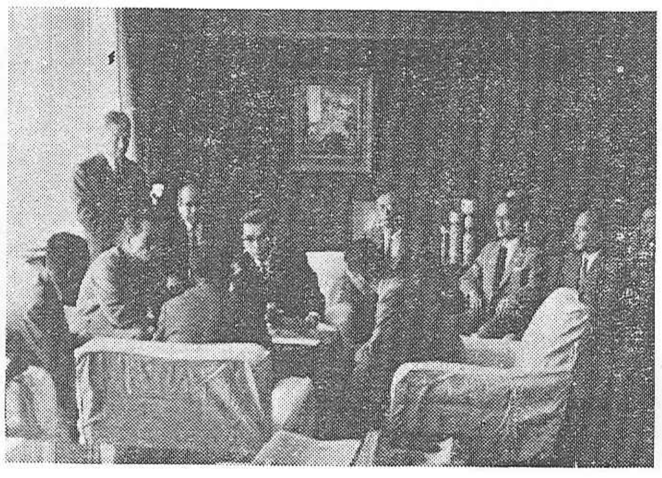
近畿 関東 教育界への朗報

修学旅行専用電車建造決まる

本年秋より十二両編成で運行

関東各県（東京都を除く）や近畿各県（京阪神三市を除く）中学校生徒の、修学旅行輸送のあい路を抜本的に解決すべく、当協会が関係地域の教育界とともに、昭和三十六年以来進めてきた専用電車建造運動は、ついに実を結び、いよいよ両地域にも本年秋の国鉄ダイヤ改正とともに、各々十二両編成の修学旅行専用電車が、品川と京都間、西明石と品川間にそれぞれ運行されることになつた。



国鉄副総裁室にて本社側と会談する原田憲代議士・山本理事長、近畿二府三県修旅委代表

これは、昨年四月より両地区の中学生を〃ひので号〃・〃きぼう号〃に四両を増結して暫定的に輸送していたものを改めたもので、これによつて利用生徒の増加や四〇〇人以上の学校の分割輸送の不便や学校行事に支障をきたしていた種々の難問題が解決されるわけである。

昨年十月五日、原田憲代議士と共に全修協より山本理事長、永井常務、白滝局長、近畿二府三県中学校修旅委代表として大阪府修旅委副委員長葛城新太郎氏（和泉三中校長）兵庫県修旅委運営委員長坂西啓二郎氏（西宮甲陵中校長）奈良県修旅委副委員長岩本巍夫氏（大宇陀中校長）滋賀県修旅委運営委員長初田育造氏（大津市日吉中校長）近畿二府三県中学校修旅委事務局長小西惣二郎（全修協大阪事務所長）の諸氏が国鉄本社を訪問し磯崎副総裁室において、本社側の今村営業局長、林運転局長池上旅客課長と会談した結果、近畿二府三県に対する専用電車一本を独立して建造する大綱が国鉄側より明らかにされた。これによると、近畿二府三県中学校のため、現在の〃きぼう号〃（京阪神三市使用）の外に新たに修学旅行専用電車を一編成（十二両予備四両）を国鉄資金によつて建造するもので、ダイヤも（往路）西明石発九時三〇分、品川着一八時三〇分、（復路）品川発二一時、西明石着八時三〇分になる模様である。尚建造の時期は本年の十月頃の予定であるが、これが完成されれば近畿二府三県中学生約十三万の輸送が非常に楽になり、安全快適な修学旅行が実施できるわけで、教育界は勿論、父兄の喜びは大きいと言えよう。

引き続き十一月下旬、国鉄本社より、関東地区各県にも〃ひので号〃（東京都使用）の外に新たに修学旅行専用電車一編成（十二両予備四両）を建造するが旨が全修協に知らされた。

尚、建造の時期は近畿地区と同様本年の十月頃の予定で、ダイヤは（往路）品川発九時三〇分ー一〇時、京都着一八時、（復路）京都発一九時三〇分、品川着五時四〇分になる模様であるが、これが運行されれば、今まで三月や七月の季節はずれの修学旅行が適期に実施できるばかりでなく、朝の三時や四時起きしていた北関東各県の生徒も助かることになり、また四〇〇人以上の学校が分割輸送を行つていた不便も解消できよう。

近畿地区に引続き関東地区の教育界に対しても、国鉄当局がこのように立派な修学旅行専用電車を建造してくれることは、生徒は勿論父兄や関係者一同、非常に感謝しており、昭和四十年の新春を迎えるに当り、最大の贈りものとして国鉄当局の英断に感謝すると共に永年に亘りこれが実現のために努力された各関係者の方々からも大変よろこばれている。

三重県の修学旅行

財団法人　全修協三重県支部長

森　孝太郎

昭和四十年の新春を迎えるに当り、皆様のご多幸を心より祈ります。

昨年十一月二十七日、三重、愛知、岐阜三県で結成している東海三県修学旅行委員会では、こまどり号誕生五周年の記念式を挙げ、合計二千四百余校、六十五万余人の安全無事故の輸送を祝しました

本県では三十五年一月以来、県教育長会長として、三重県修学旅行研究会を結成し、教育課程に位置づけられた小、中、高校の遠足や修学旅行の目的や意義は申すまでもなく、計画立案、事前指導、実地指導、事後の反省にいたるまで、あらゆる機会にこれらの問題を研究しております。特に本県ではこの会のために県及び市町村より補助金を受け、また各学校よりの分担金などで、専従の職員を置いて真剣に取り組んでおり、昨年九月には機関紙〃修学旅行〃を発行いたしました。

修学旅行の安全性を確保するため、輸送面におきましては、小学生のために近鉄のオール二階建ビスタカー〃あおぞら号〃、中学生のために快適な国鉄の湘南型急行電車〃こまどり号〃、高校生のために瀬戸内海に世界で初めてと言われる関西汽船の修学旅行専用船〃わかば丸〃や〃ふたば丸〃を大いに利用いたしまして、他の府県では到底得られない良い輸送機関に恵まれております。尚、これらの電車や船の建造経過につきましては、三十七年十月研究会より発行しました〃あゆみ〃という冊子に詳しく掲載されております。

研究面におきましては、三十五年以来全修協本部の指導によりまして、引率教師の座談会や、修学旅行関係の交通、宿泊、あつ旋業、土産品、見学施設などの関係業者や学校代表、PTA代表などが集りまして、より有効な、より教育的な修学旅行にするため、研究会や座談会を開催いたしております。

以上、三重県の修学旅行の概観を述べましたが、今後共校外教育の一環としての修学旅行を、ますます向上させるために皆様と共に精進いたしたいと存じます

修学旅行の正しい方向へ運動展開

各地区協議会で検討

修学旅行が惰性的に行なわれ、ムード化し、本来の教育的な在り方を忘れているのではないかという批判が出ている。

協会では、この問題ととり組み現状の反省と正しい姿勢への、運動展開のため、全国的に地区毎の協議会を開いた。

十一月十二日（九州）十一月十四日（中、四国）十一月十六日（東海）十一月十八日（北陸）十一月二十日（東北）十二月一日（関東）十二月十二日（近畿）の各地区協議会において共通して討議されたことは、好ましい修学旅行実施の「生徒記録」を集積して、これを契機にして具体的に運動を進めようということであつた。

なお、今年の夏、行われる研修旅行については、①学術的内容を重んずること、②年間を通じての教育行事化へ③公費補助の増額等が討議され、その具体的計画が決定された。

時に、研修旅行の目的が、教職員生活の緊張を緩和し、一般的また専門的教養を身につけるもので教育効率の向上をはかるのに大切な行事である点が明らかにされ、また多くの希望者の声にこたえて海外視察旅行をも行なうことも決められた。

この研修旅行の目的意識にたつて、今年度は全国教職員七〇万の一%七、〇〇〇名の参加を見ようと、各地区各都道府県の目標人員を検討の上決定した。

愛知県のお母さん あおぞら号で修学旅行

お母さん達も勉強しようと、去る十一月十六日から四日間に亘つて名古屋市内や愛知県各郡より約千名近いお母さん達が集まり、日帰りの修学旅行が行われた。これは全修協愛知県支部が主催、県や市の小、中校PTA連絡協議会協賛により、近鉄修学旅行電車「あおぞら号」を利用するもので、快適な電車の乗心地と共に、伊勢や奈良の史跡や紅葉の美しい景色を探る非常に意義深い催しとして、参加者は勿論広く一般からも好評をうけており、この催しは本年も引続き実施することになつている。

第八回九州研旅第一団参加者

原爆患者へ見舞金

長崎見学中の美挙

三十九年度（第八回）九州研修旅行第一団四一五名（七月二九日ー八月六日）は、長崎を見学した際被爆いらい十九年も闘病生活を続けている人達の事を聞き、会員の要望で、帰路の列車の中で、加藤貫一団長以下各班長が、見舞金を集めたところ、一万九千余円となつた。これに協会からも見舞金を加えて、総額二万円として、田崎全修協長崎県支部長を通じて、長崎新聞社から、長崎市片淵町にある原爆病院に贈つた。長崎新聞、原爆病院から、皆様の心温まる真情に感謝しますという礼状が協会にきている。

尚、このことは、長崎新聞（八月二三日付）に掲載された。

修旅の美化運動

「きれい袋」二万枚配布

修学旅行の環境を良くし、併せて国土美化運動に協力するため協会では三十八年長野大会以来、各方面に「修学旅行のきれい運動」を展開してきた。

今回、協会では千葉県修学旅行委員会、茨城県校長会、茨城県修学旅行委員会によびかけ、昌東プラスチックKKの協賛によりポリエチレン製の「きれい袋」を二万枚作成して、茨城県や千葉県の学校に贈呈した。これによつて、修学旅行や遠足の時の屑物の散乱が防げるので、各関係者より大いに喜ばれている。

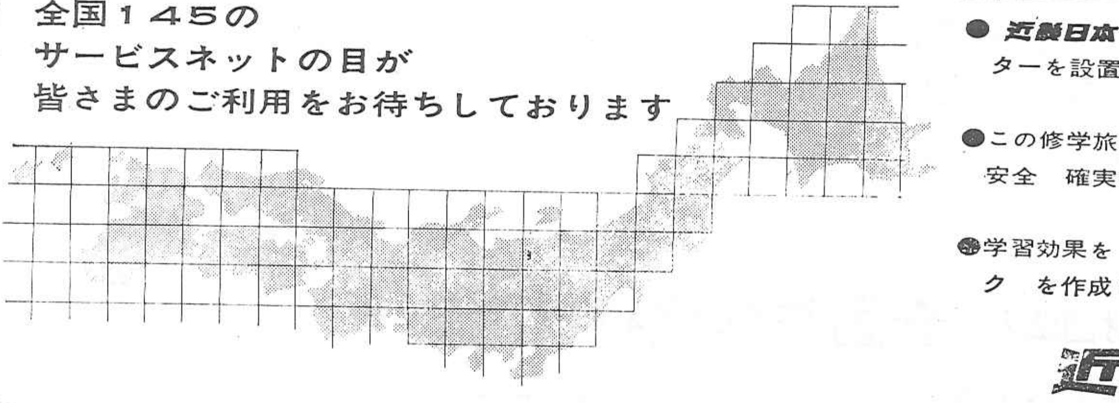
なお、このきれい運動は逐次他県にも進めてゆく予定である。

賀正

財団法人

全国修学旅行研究協会事務局

理事長	山本種一
常務理事	永井熙
理事、事務局長	白滝末紀
事務局次長	山本実
総務部長	加藤為治
研修部長	福井彰二
経理主任	金谷幸子
研修部員	小坂稔
総務部員	小野寺京一
大阪事務所長	小西惣二郎
〃　所員	坂井美恵子
名古屋事務所長	宮本秀吉
嘱託	河野正夫
〃	鈴木万一



全国１４５の
サービスネットの目が
皆さまのご利用をお待ちしております

● 近畿日本ツーリストでは　全国の主要都市に　修学旅行センターを設置して　修学旅行を専門にあつかっております

●この修学旅行センターでは　学習効果の向上　疲れない旅行　安全　確実な旅行　とコースの改善　研究に努力しております

●学習効果を　より高めるために　映画　スライド　ガイドブック　を作成しております

近畿日本ツーリスト